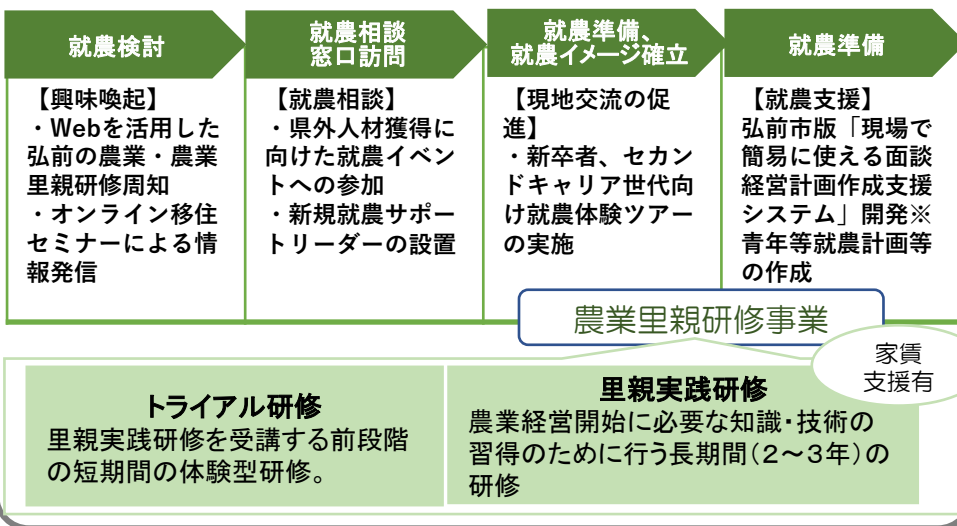


地域農業の概況・課題

- 令和元年の弘前市の農業産出額は461億円（対前年比+31億円）で全国8位（前年11位）、6年連続東北1位。また、果実部門でみると、394億円（対前年比+36億円）で6年連続突出して1位。
- 第2次・3次産業においても、りんご関連産業が多く存在し、第1次産業が地域の基幹産業となっていることから、第1次産業の維持・発展が地域振興に欠かせない。

事業の方針

当市の基幹作物であるりんごをはじめ、高度な栽培技術の早期習得や円滑な地域定着を図るため、令和2年度から「農業里親研修事業」を開始。本事業は、幅広い年代をターゲット別に周知を図り、地域外から就農検討段階の人材を引き込み、「農業里親研修事業」を柱として、就農希望者の掘り起こしから就農地域への定着までの各フェーズに応じて、一貫したサポート体制の構築を行う。



実施体制

事業実施主体：ひろさき農業総合支援協議会

構成員	役割
弘前市 (協議会事務局)	・ 事業推進の全体調整 ・ 新規就農者確保に向けたPR活動、新規就農相談 ・ 就農希望者と里親農家とのマッチング ・ 農業里親研修の進捗確認及びフォロー ほか
弘前市農業委員会	・ 新規就農者への農地の情報提供 ほか
青森県中南地域県民局 地域農林水産部 あおもり農業支援センター	・ 農業次世代人材投資資金（準備型）活用検討者の相談業務 ほか
JAつがる弘前 JA津軽みらい JA相馬村	・ 新規就農者への技術、資金相談業務 ほか
青森県りんご協会	・ 地域毎の生産者コミュニティである同協会支会を核とした地域定着支援 ・ 後継者育成事業情報提供 ほか
青森県農業共済組合 ひろさき支所	・ 生産者への事業周知、収入保険の加入促進 ほか
青森県農業法人協会	・ 雇用就農にかかる情報提供 ほか

事業目標・成果

就農希望者に対する情報提供や相談対応のほか、農業経営に要する技術習得、就農後の地域定着まで一貫したサポート体制が構築され、日本一のりんご産地を支える担い手の確保と地域定着が図られる。

新規就農サポート体制構築・推進委員会の設置

※農業人材確保・就農サポート体制確立支援（地域の新規就農サポートタイプ）関係部分抜粋

情報連絡会議：就農希望者の相談内容に応じた対応や、新規就農のサポート体制について協議・共有するため、協議会実務担当者が定期的に情報交換を実施。研修状況の共有及びサポート体制の方向性について議論。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、年4回実施の予定が年3回に変更。うち1回はオンライン開催となった。令和4年2月に実施した情報連絡会議においては、既存の農業里親研修に加えて、令和4年度以降、雇用就農の強化や、受入れ農家の受け入れ体制に関する勉強会を実施する方向で協議。



令和3年8月開催



令和4年2月開催

現地顔合わせ会：里親実践研修（農業里親研修の長期研修）の研修生に対して、研修園地において関係機関が集い、顔合わせ及びサポート体制の確認を実施。



受入プログラム・研修プログラムの作成

先行して里親農家制度に取り組む長野県を視察。先進地の調査を経て、関係機関の役割分担、各種制度のメリットデメリットについて関係機関で共通認識を持つとともに、求める就農者像、選考方法について意見交換を行うことができた。それらを踏まえた受入れプログラムを作成。

先進地視察先	訪問予定者	視察時期	視察内容
長野県農業大学校 信州うえだファーム	協議会会員（市内3JA職員、事務局）	R3.12.22（水） ～12.23（木）	<ul style="list-style-type: none"> 就農希望者受け入れに係る関係団体との役割分担について 就農希望者受け入れ後の研修カリキュラムについて 耕作放棄地再生後、新規就農者への引き渡す際の実務について

※農業人材確保・就農サポート体制確立支援（地域の新規就農サポートタイプ）関係部分抜粋

新規就農者募集に係る広報活動

移住者向けHP内の拡充及びSNS拡散：「弘前の農業に関心を持ってもらう」ことを目的に、弘前市の移住者向けのHP「弘前ぐらし」において情報発信を実施。（令和3年10月：委託契約→令和4年1月～：SNS拡散→令和4年2月：HP情報拡充完了）

- ・受入農家である「里親農家」の思いや日常生活について記事を作成し、ページを作成。



- ・弘前市で就農するということについて
- ・生産されている農産物に対する思い、良い点だけでなく、大変な点などを里親農家に取材。就農体験をしてみようと思ってもらえるよう、優しい雰囲気の記事掲載。

- ・新規就農者の日常がわかるよう、若手生産者のSNSをページ内で紹介。

若手生産者SNS紹介

弘前市内で新規就農された生産者さんの活動の様子をSNSを通して、ご紹介いただけます。就農のイメージや、実際どのようにされているのが覗いてみてください。

中田農園
 FACEBOOK : @nakatanouen
 株式会社Ridun、KIJIMARU APPLE 永井 満子
 Twitter : @nakko_stepan
 note : Atsuko Nagai/りんごをもっとたのしもう

SNSを活用して農業情報を発信している市内若手生産者を選定し、本人に趣旨を理解してもらったうえでアカウント掲載

- ・SNS誘導により、当該ページに誘導を実施。

媒体	Facebook、Instagram
地域	東京、千葉、埼玉、神奈川在住
性別	男女すべて
興味関心	移住、田舎、Uターン、農業、アグリビジネス
リーチ	125,828
リンクのクリック	1,642



※農業人材確保・就農サポート体制確立支援（地域の新規就農サポートタイプ） 関係部分抜粋

新規就農者募集に係る広報活動

【就農イベント参加】

日時	イベント名	会場	実施方法	相談者数
1月9日（日）	東北U・Iターン大相談会	東京交通会館	対面	3名
1月29日（土）	新・農業人フェア	池袋サンシャインシティ	オンライン	4名



【農業里親研修PRチラシ作成】

- ・就農イベントで就農希望者に農業里親研修を周知するためのPRチラシを作成

農業就農体験、現地見学会等の開催

【トライアル研修】

利用人数	利用日数	進捗状況
5名（延べ7名） 県内3名、県外2名	8日間	1名：雇用就農決定 2名：令和4年度も継続してトライアル研修による情報収集を希望

【学生向け就農体験ツアー】

開催日：令和3年10月9日（土）

午前9時から午後4時30分まで

開催場所：弘前市りんご公園、津軽ゆめりんごファーム

参加者数：8名（営農大学校1年生4名、市内私立高校2年生2名、市内県立高校3年生2名）

実施内容：ひろさき農業総合支援協議会の就農サポート体制紹介、先輩農家の就農ステップ紹介、農業体験（りんごの収穫）

【高校生を対象にしたりんごの後継者問題ワークショップ】

開催日：令和3年11月9日（火）午後6時から午後8時

開催場所：HLS弘前

参加者数：5名（市内県立高校生4名、市内私立高校生1名）

実施内容：弘前市が実施する高校生放課後まちづくりクラブSTEPにおいて、弘前市の農業後継者問題を報告し、高校生自らが、弘前市の後継者問題を解消するために何ができるのかワークショップを実施。



周知チラシ



10月10日（日）
陸奥新報2面